

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度 第2回麻溝地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		麻溝まちづくりセンター 電話042-778-2381 (直通)		
開催日時		令和8年1月26日(月) 19時00分～21時00分		
開催場所		麻溝公民館 大会議室		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	2人(麻溝まちづくりセンター所長、地域政策担当)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 最終処分場部会からの報告</p> <p>3 行政説明 (1) 次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について (2) 麻溝地区まちづくり会議からの要望書に対する回答について</p> <p>4 副市長との意見交換</p> <p>5 その他 (1) ごみの現状と課題に係るまちづくり会議への説明について (2) 地域活性化事業交付金について (3) 市長との意見交換会開催について</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

(◎は会長の発言、○は委員の発言、●は市の発言)

1 会長あいさつ

(1) 会長あいさつ

会議開催にあたり、麻溝地区まちづくり会議 伊藤会長よりあいさつした。

(2) 副市長あいさつ

石井副市長よりあいさつがあった。

2 最終処分場部会からの報告

中島委員から最終処分場部会部会長として、市との調整などこれまでの経緯について説明があった。

○麻溝地区に次期一般廃棄物最終処分場が造られるというのは、麻溝の子どもたちに負の遺産を残すことになるが、相模原市全体から考えると麻溝地区で引き受けざる得ないことも確かである。引き受けるということは後世に対しても責任を持つことになる。今後、次の次の最終処分場を造らないことを約束してほしい。

また、地域振興策については、路線バスといった公共交通機関の充実など地域振興の効果が実感できるような取組を速やかに行ってもらいたい。

●子どもたちへの負の遺産であるということをしっかり受け止める。最終処分場を含め、麻溝地区の地域振興についてどのように進めていくのか、地域の人たちと連携しながら進めていきたい。

3 行政説明

(1) 次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について

資料に基づき、清掃施設課より説明があった。

○候補地の最終評価を見る限り、津久井地域の候補地5、6ではなく、麻溝地区の候補地8、9ありきに見えてしまう。本当に適正なのか。もっとも有力な候補地の決定の仕方があまりにも単純である。なぜ麻溝地区で決定なのかという意見に対しては説明責任がある。

●今回は最も有力な候補地としての提案であり、決定ではない。今後、地域の皆様や市民にも説明していき、ご理解をいただいた上での決定となる。

●選定評価まとめの表に記載の内容だけで決めているわけではない。地域の方々にも70回以上説明をさせてもらっている。また各候補地で専門家による評価を行って

いる。

選定評価の結果として、津久井地域の候補地5，6では専門家の調査により希少動物が発見された。また麻溝地区の候補地9には希少動物の営巣が確認された。そのような候補地は評価を下げた。

また、CO₂吸収減量の関係から森林伐採しなければならない候補地5，6，9については評価を下げた。特に候補地5，6は水源林であり、1キロの搬入道路を造成するため、大量に森林伐採をする必要があった。

また、候補地8にも課題があり、西側の候補地に地中の埋設物があった場合には選定できなかった。そのため昨年度調査したが、埋設物の可能性は低いことが判明した。

このように様々な調査を実施した結果、総合評価により候補地8に選定せざるを得なかった。

○人口の変化をどのように考えているのか。相模原市の人口は今後減っていくため、必然的にゴミも減っていくだろう。そうした場合、最終処分場も想定より延命化されるのではないか。

○次期最終処分場を麻溝地区に造るとしても、将来的には新たな処分場が必要になる。50年100年先を考え、コストがかかっても残渣を減らすよう工夫してもらいたい。

●南清掃工場ではゴミをスラグという砂にして道路のアスファルトに使っており、今後スラグにならないものは民間事業者に委託して埋立ゼロを目指す。新しく造る最終処分場もできるだけ小さくした上で、延命化しようと考えている。

●長い年月、麻溝地区には負担をかけ続けている。ゴミの排出量を減らしていくのが基本であり、全市を挙げて検討していきたい。

○候補地8の敷地面積について12.05haとあるが、災害廃棄物の仮置き場や緑地も含まれていると思う。実際はどの程度の範囲を整備するのか。

●基本構想で想定している全体の面積は9.4ha。最終処分場そのものは7haとなる。

○できるだけ規模を小さくしてもらいたい。また災害廃棄物の仮置き場は、候補地8内に造るのではなく、現在の最終処分場の跡地に造ればよいのではないか。

(2) 麻溝地区まちづくり会議からの要望書に対する回答について

資料に基づき、清掃施設課及び廃棄物政策課より説明があった。

○ゴミの埋立がなくなるためにどのような研究をしているのか聞きたい。

●ゴミを焼却すると燃え残りが出るが、スラグの有効活用として、アスファルトだけでなく、コンクリートにも使えるよう民間と共同研究をしている。

またスラグにならない不燃物についてはこれまで埋立したが、研究していく中で金属が回収できることが分かり、回収できた金属は売却している。それでも残ってしまうものは、民間の高度な溶融技術を試験的に活用しており、埋め立て量を減らしていくような取組を推進している。

○ギオンスタジアムではサッカーの試合など多くのイベントが開催されることに加え、麻溝公園にはアイススケート場や巨大滑り台が今後建設され、人を集められる施設ができるにも関わらず、麻溝公園周辺への交通アクセスが悪い。特に原当麻駅からの交通アクセスがない。来年度、相模原駅北口では自動運転バスの実証実験を行うとのことだが、麻溝地区でもやってほしい。常時、原当麻駅から麻溝公園方面への交通手段が必要であり、それによって、相模線の利用者増や地域活性化にも繋がる。

●まちづくり会議委員の方からもそのことは言われており、施設の整備だけでなく、そこでの交通アクセスも必要と考えている。庁内横断的な組織もつくっており、都市建設局とも意見交換をしている。バスの利便性向上については地域の皆様と考えていきたい。自動運転バスを麻溝地区に導入するかについてはここで話すことはできないが、意見として持ち帰る。

○ロードマップのサブ目標に1人1日当たりのゴミ排出量について、政令指定都市上位を目指すとしているが、現在はゴミ排出量が少ない順から何番目か。

●令和5年度の情報になるが、20政令市中、16番目となっている。

○食品の包装などゴミの大本は企業が生み出しているものだと思うが、企業はどのように取り組んでいるのか。企業の取組みが記載されていないが。

●具体的な取組内容はまだ明示できないが、4Rや5Rなど徐々に取り組んでいる。先進国ではパックに入れた商品は少なく、ヨーロッパでは当たり前のことになっている。そうした取組も国を挙げて進めていく内容として、機会を通じて国に対して展開していく。併せて市民の皆様にもご協力していただきたい。

○市内のゴミを一手に受けるのだから地域振興策に還元してもらいたい。麻溝公園周辺は市のへそとなる要素はあると思う。

○地域振興のワーキンググループ設置について、市としてはどのようなものを想定しているのか。麻溝地区に対して何がしたいですかと聞くだけでなく、「相模原市にはこういった課題があるので、モデル地区のような形で麻溝地区の皆さん、一緒にやりませんか。」みたいな提案も示してほしい。地域振興策は10年、20年と長期の事業となる。担当が変わっても確実に引継ぎを行ってほしい。

他の地域でもワーキンググループのような形で地域課題に取り組んでいる例はあ

るか。

- 市内ではそのような形式で様々な取組みがある。例えば光が丘地区の青葉小学校の跡地利用については地区の皆さんが集まって、施設にどのような機能がほしいのか地域の要望や市の要望を出し合って決めている。

麻溝地区の地域振興については、跡地利用だけでなく、交通アクセスやその他の振興策など様々な分野に及んでいる。ワーキンググループとしての位置づけではなく、まちづくり会議の部会のような位置付けもあるので、方法については今後検討したい。なお、市からの提案も可能である。その際は市からの強制ではなく、あくまでもテーマやキーワードなど議論の入口としての提案になると思う。担当が変わってもしっかりと引き継げるよう覚悟を持って取り組んでいく。

4 その他

(1) ごみの現状と課題に係るまちづくり会議への説明について

資料に基づき廃棄物政策課から説明があった。

- 市内の各地区のまちづくり会議にて資料を基に説明を行っており、残り4地区のみとなった。特に麻溝地区の取組みを説明していく中で、麻溝地区ばかりに負担を負わせるのは良くないというようなご意見もあった。

(2) 地域活性化事業交付金について

団体からの地域活性化事業交付金の申請について、2事業をまちづくり会議役員会にて内容を確認し承認した旨を伝えた。

- 今回承認された地域活性化事業交付金のうち、おもしろ防災まつりについては、衆議院選挙期日前投票により会場が使えないことから今年度は中止とした。南区役所との調整の結果、今回は主催者側の原因による中止ではないことから、来年度も地域活性化事業交付金を使わせてもらい開催できることになったのでご承知おきいただきたい。

(3) 市長との意見交換会開催について

- 次期一般廃棄物最終処分場及び要望書の回答書について、市長を交えた市との意見交換会を開催することとなった。日程は令和8年3月2日（月）となる。詳細が決まり次第、関係者には開催通知をお送りする。

9 閉会

以上

麻溝地区まちづくり会議 委員名簿

No.	団体名	委員		まちづくり 会議での役職	出欠
		団体での役職	氏 名		
1	麻溝地区自治会連合会	会長	伊藤 信裕	会長	出
2	麻溝地区自治会連合会	副会長	中島 勝平		出
3	麻溝地区自治会連合会	副会長	白井 幸夫		出
4	麻溝公民館	館長	田村 光弘	副会長	出
5	麻溝地区社会福祉協議会	会長	境 勉	副会長	出
6	麻溝地区民生委員児童委員協議会	会長	栗山 雄一	副会長	出
7	麻溝観光協会	副会長	内田 明		欠
8	安全・安心まちづくり推進協議会麻溝支部	副支部長	座間 正見		出
9	安全・安心まちづくり推進協議会麻溝支部	副支部長	加藤 賢次		欠
10	安全・安心まちづくり推進協議会麻溝支部	副支部長	箕輪 良市		出
11	麻溝地区老人クラブ連合会	会長	安藤 正義		出
12	麻溝地区青少年健全育成協議会	会長	井上 國雄		出
13	麻溝商工振興会	会長	石原 武		欠
14	麻溝公民館運営協議会	委員	佐藤 文雄		出
15	相模原市スポーツ推進委員	委員	小原 隆		出
16	相模原市青少年指導委員	代表	山口 隆		欠
17	相模原市農協麻溝支店運営委員会	委員長	座間 秀行		欠
18	相模原市消防団南方面隊第1分団	分団長	川崎 敬一		欠
19	麻溝小学校PTA	会長	井上 雄輔		出
20	夢の丘小学校PTA	会長	川原 剛		欠
21	相陽中学校PTA	副会長	木之下 怜香		欠
22	当麻地区まちづくり委員会	会長	本多 展克		出
23	学校法人 北里研究所	次長	村川 健一		欠
24	学校法人 女子美術大学	校友室主幹	友部 徳寿		出
25	麻溝地域包括支援センター	管理者	細山 賢太郎		欠
26	学校法人光明学園 相模原高等学校	校長	天野 雅秀		出
27	県立相模原支援学校	教頭	蒲原 泰広		欠

令和7年度 第2回麻溝地区まちづくり会議 次第

日 時 令和8年1月26日(月)

午後7時00分から

場 所 麻溝公民館 大会議室

1 開会

2 会長あいさつ

3 最終処分場部会からの報告

4 行政説明

(1) 次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について (清掃施設課)

(2) 麻溝地区まちづくり会議からの要望書に対する回答について

(清掃施設課・廃棄物政策課)

5 副市長との意見交換

6 その他

(1) ごみの現状と課題に係るまちづくり会議への説明について (廃棄物政策課)

(2) 地域活性化事業交付金について

(3) 市長との意見交換会開催について

7 閉会

次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について



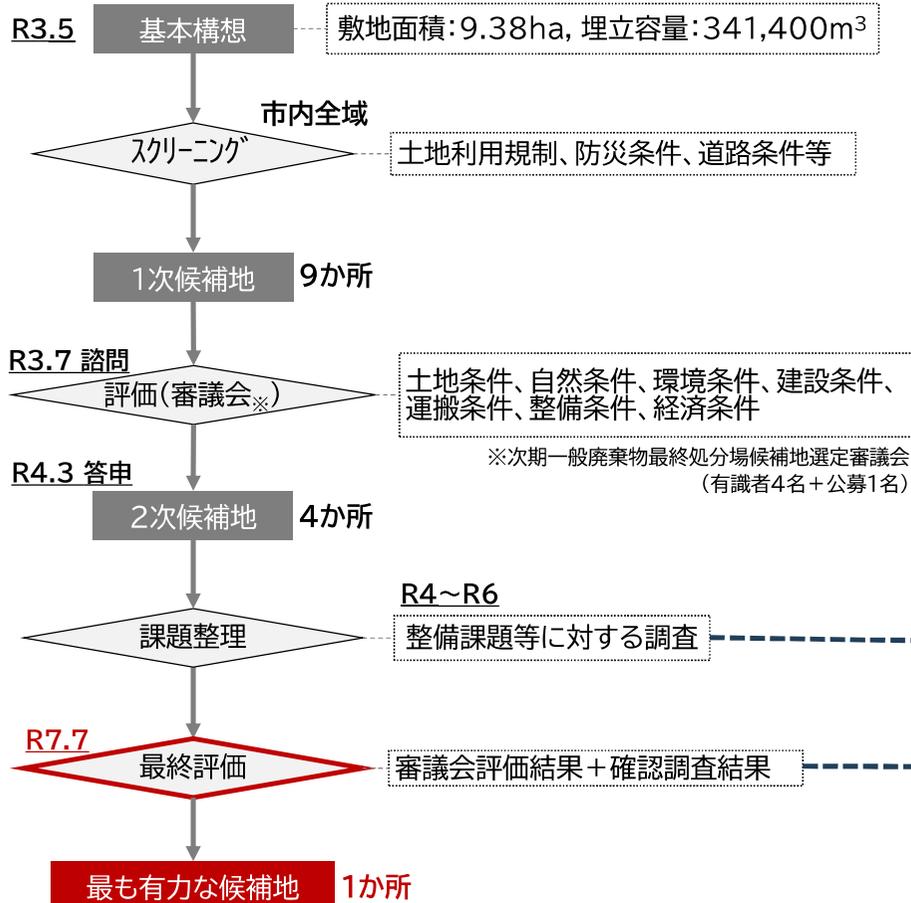
現在の最終処分場
(シゲンジャーパーク)
南区麻溝台



令和8年1月26日
環境経済局環境部 清掃施設課

次期最終処分場 候補地選定の経過

■候補地選定の経過



■主な調査内容

主な調査内容	候補地			
	5 根小屋	6 根小屋	8 麻溝台	9 麻溝台
R4 (委託) 現地踏査・配置検討・整備費等	○ 調査実施	○ 調査実施	○ 調査実施	○ 調査実施
R5 (直営) 公共下水道への処理水放流	○ 調査実施	○ 調査実施	調査不要	調査不要
R6 (委託) 堆積物・地中埋設物の把握	調査不要	調査不要	○ 調査実施	○ 調査実施

■最終評価項目

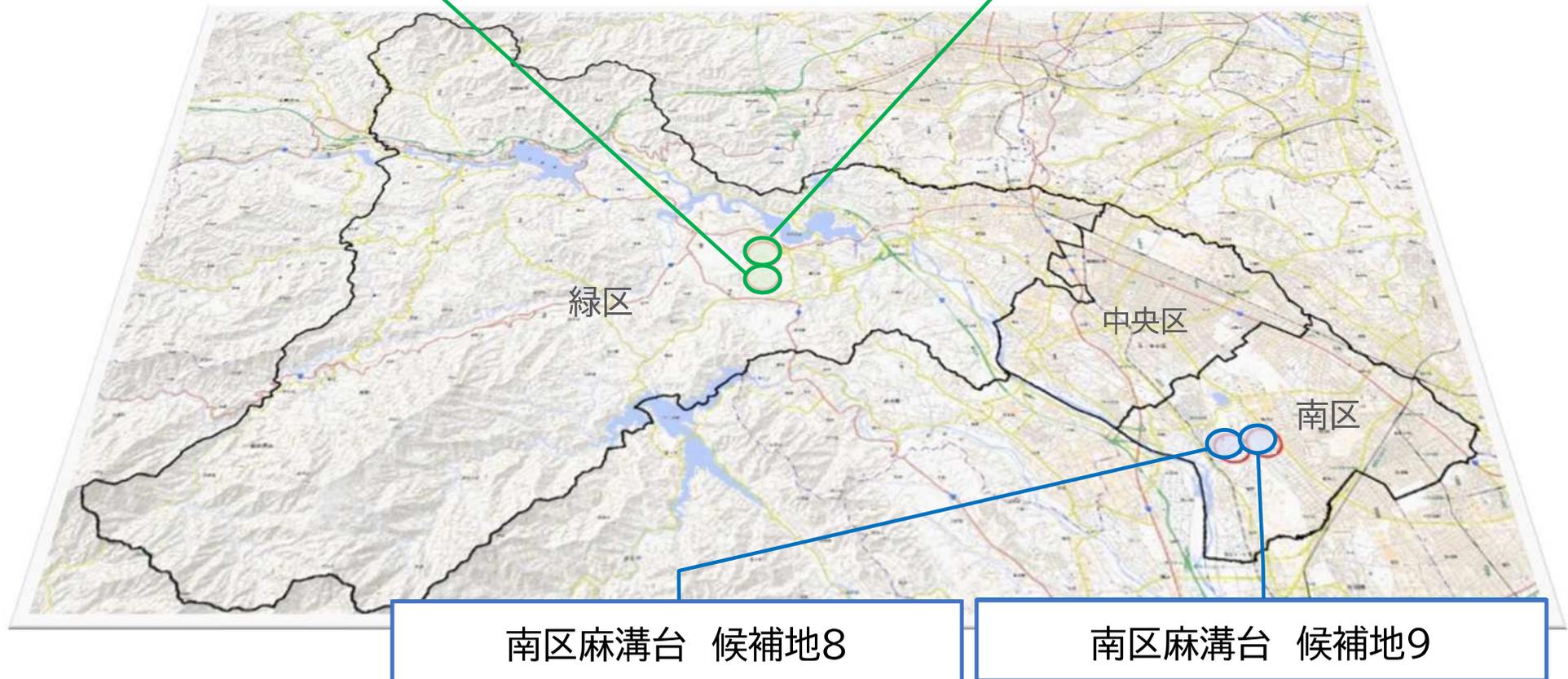
評価項目	評価指標※
土地条件	土地利用状況、土地所有状況
自然条件	地形の状況、希少動植物の確認状況、植生自然度
環境条件	取水への影響、公共下水道の状況、民家の存在、森林CO2吸収減少量
建設条件	防災に係る法規制等
運搬条件	運搬効率、運搬CO2排出量
整備条件	整備計画の容易性(整備課題に対する調査)、将来計画の可能性
経済条件	施設整備費(用地取得費含む)、維持管理費

※下線なし(R3審議会時の指標)+下線あり(R4以降の調査で追加した指標)

次期最終処分場候補地 4箇所

緑区根小屋 候補地5

緑区根小屋 候補地6



候補地選定にあたっての大切な視点

- ◎本市の場合、整備可能な候補地が少なく、どの候補地でも課題がある箇所から選定しなければならない状況である。
- ◎これまでの候補地選定スキームを基に、地域対話や課題解決に向けた取組を考慮した候補地選定が必要である。
- ◎いずれの候補地を選定しても、地域の大切な土地に最終処分場を整備するということを改めて認識する必要がある。

選定評価まとめ

※ A>B>Cの順で候補地としての適性が高い

評価条件	評価指標	評価	5 根小屋	評価	6 根小屋	評価	8 麻溝台	評価	9 麻溝台
土地条件	土地利用の状況	B	山林(散策道あり)	A	山林	C	農地	B	山林(散策道あり)、近郊緑地
	土地所有の状況(地権者数)	B	35名(111筆)	B	30名(114筆)	C	104名(174筆)	A	市有地半数以上
自然条件	地形の状況(流域面積)	A	1.5倍	B	2.2倍	A	1.0倍	A	1.0倍
	希少動植物の確認状況	C	営巣の可能性高い ↓ 希少動植物を確認(R4)	C	営巣の可能性高い ↓ 希少動植物を確認(R4)	B	営巣を確認した 地点から400m圏内	B ↓ C	過去に営巣を確認 ↓ 営巣を確認(R5)
	植生自然度	C	89%	C	66%	A	2%(現調で植生なし)	B	14%
環境条件	取水への影響(水道用水)	A	1km圏内なし	A	1km圏内なし	A	1km圏内なし	A	1km圏内なし
	公共下水道の状況	C	供用区域外	C	供用区域外	A	供用区域内	A	供用区域内
	民家の存在(300m圏内)	C	約340棟	B	2棟	B	約210棟	C	約540棟
	森林CO ₂ 吸収減少量	C	92t-CO ₂ /年	C	72t-CO ₂ /年	A	2t-CO ₂ /年	B	11t-CO ₂ /年
建設条件	防災に係る法規制等	C	土砂災害特別警戒区域(土石流)等が該当	C	土砂災害特別警戒区域(土石流)等が隣接	A	該当なし	A	該当なし
運搬条件	運搬効率(運搬距離×運搬量)	B	330×10 ³ t・km	B	330×10 ³ t・km	A	70×10 ³ t・km	A	60×10 ³ t・km
	運搬CO ₂ 排出量	B	40t-CO ₂ /年	B	40t-CO ₂ /年	A	9t-CO ₂ /年	A	7t-CO ₂ /年
整備条件	整備計画の容易性(R3)	B	搬入道路等	B	搬入道路等	C	堆積物、地中埋設物等	B	雨水幹線、災害仮置場不足等
	搬入道路整備	C	必要(約1km) ↓	C	必要(約1km) ↓	B	不要 =	B	不要 =
	公共下水道への処理水放流		困難性高い ↓		困難性高い ↓		可能 =		可能 =
	堆積物・埋設物の存在		土地利用上考えにくい =		土地利用上考えにくい =		堆積物：5山確認 埋設物：可能性低 ↑		堆積物：なし 埋設物：可能性低 ↑
	都市計画上の課題		なし(区域外) =		なし(区域外) =		なし(調整区域) =		公園用地の必要性高い ↓
	整備計画の容易性(R7)		・搬入道路必要 ・下水放流の困難性高い ↓		・搬入道路必要 ・下水放流の困難性高い ↓		・埋設物リスク低減 ・堆積物への対応要 ↑		・都計変更が必須 ・雨水管横断(5.5m程度) = ・仮置場面積不足
将来計画の可能性 ①最寄駅距離 ②埋立後平場面積	B	①5.9 km ②12,000 m ²	C	①6.4 km ②7,700 m ²	A	①0.9 km ②31,600 m ²	B	①1.2 km ②1,100 m ²	
経済条件	施設整備費(R7)	B	133億(税込)	C	185億(税込)	A	88億(税込)	A	87億(税込)
	維持管理費(R7)※埋立15年	B	31億(税込)	B	30億(税込)	A	26億(税込)	A	26億(税込) 5

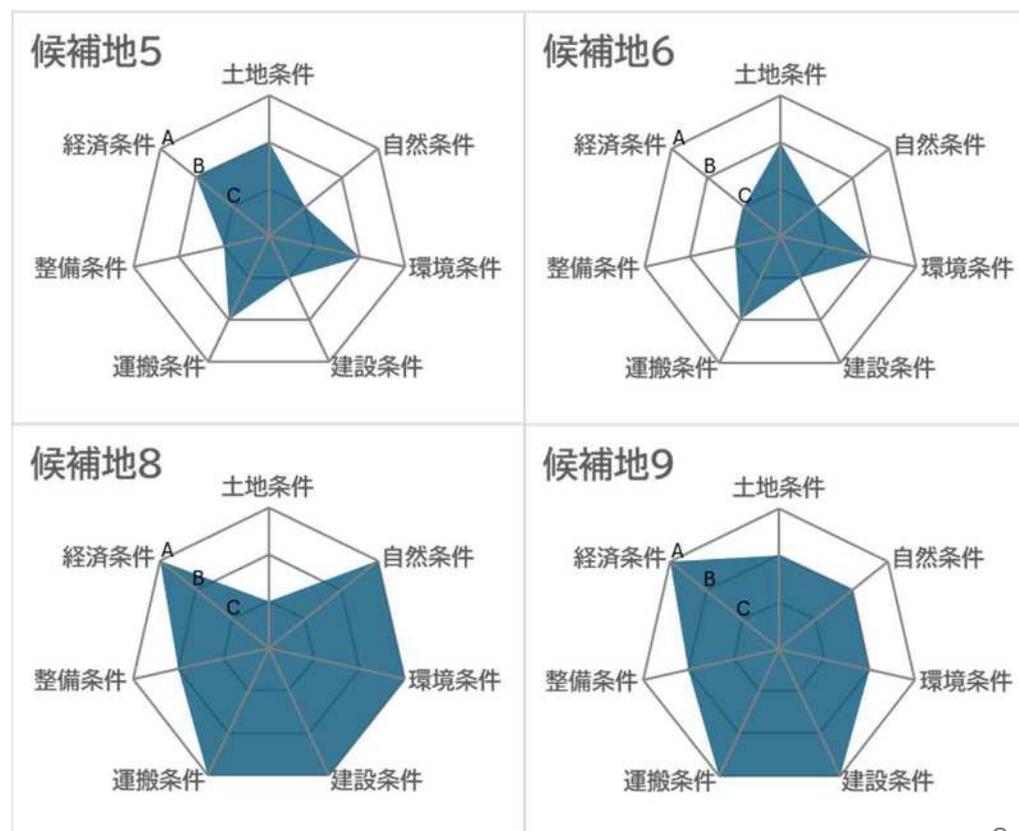
最終評価(レーダーチャートによる比較)

■最終評価方法

令和3年度の審議会で審議した評価指標の結果、及び令和4年度以降の確認調査等を基に更新・追加した評価指標の結果を用いて、評価条件毎に評価(A~C)を実施し、総合評価により最も有力な候補地を選定する。

評価項目	評価指標
土地条件	土地利用状況、土地所有状況
自然条件	地形の状況、希少動植物の確認状況、植生自然度
環境条件	取水への影響、公共下水道の状況、民家の存在、森林CO ₂ 吸収減少量
建設条件	防災に係る法規制等
運搬条件	運搬効率、運搬CO ₂ 排出量
整備条件	整備計画の容易性、将来計画の可能性
経済条件	施設整備費(用地取得費含む)、維持管理費

■最終評価(レーダーチャート)



令和6年4月19日 次期最終処分場候補地5, 6の視察（緑区根小屋）



最終評価

■候補地の比較について

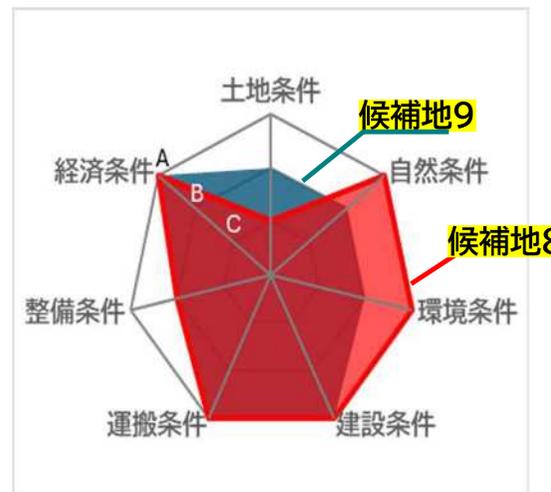
各候補地を比較すると、相対的に候補地8、9に優位性がある

また、候補地8、9の評価を比べると、全体の評価としては拮抗している状況であるが、候補地9は候補地8に比べ諸課題が多く、解決の困難性が高いことや、候補地8は唯一樹木伐採がなく自然環境への影響が少ないこと等から、**候補地8を「最も有力な候補地」とする。**

■候補地5.6を選定する場合の課題

- ・ 大半が水源協定林であり植生自然度が高く、**大量の樹木伐採が必要**である
また、森林CO2吸収量も減ってしまう
- ・ 水源地域のため新たな**下水道接続が必要**となるが、下水道供用区域外のため困難性が高い
- ・ **搬入道路（約1km）の整備**を要する
- ・ **整備費用が高額**である
- ・ 清掃工場からの距離が遠いため、運搬時のCO2排出量も多い
- ・ 土砂災害特別計画区域（土石流）に該当もしくは隣接しているため災害のリスクが高い

■候補地8.9の評価比較



■候補地9を選定する場合の課題

- ・ **公園として必要な土地であるため、都市計画決定がされている（公園の整備が更に遅れてしまう）**
- ・ 首都圏近郊緑地保全区域に指定されており、**大量の樹木伐採が必要**である
- ・ 地中に雨水幹線が横断しており、配置に制約がある
- ・ 希少動物の営巣が確認されている
- ・ 敷地面積が比較的狭い

最も有力な候補地

■最も有力な候補地8

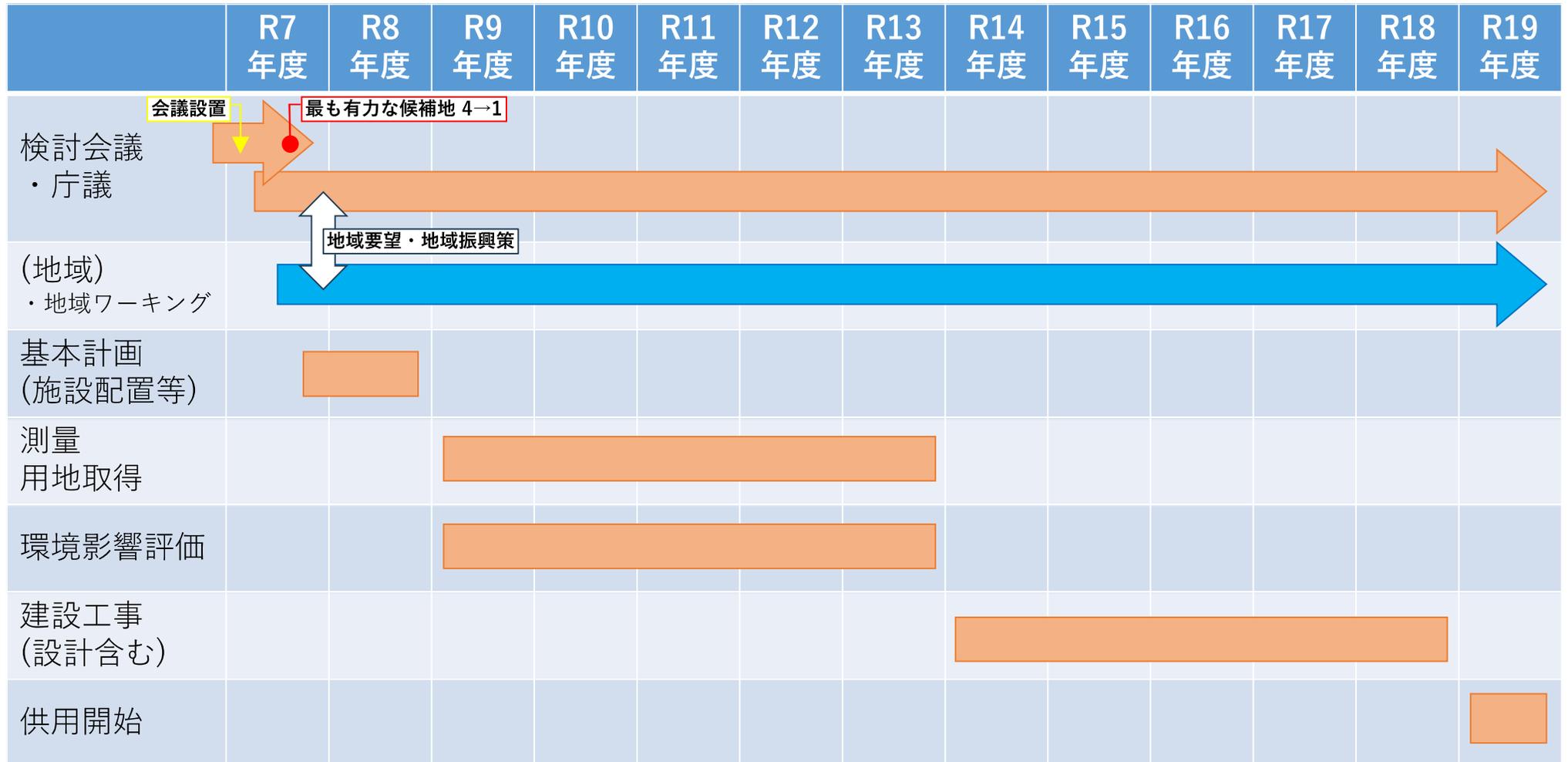
位置・範囲



概要

敷地面積	12.05ha
土地の状況等	平地・平坦な地形
現在の土地利用状況	主に農地 (第1種・第3種、雑種地)
土地所有状況(地権者数)	104名(174筆)
民家の存在(300m圏内)	約210棟
防災に係る法規制等	該当なし
公共下水への処理水放流	可能(供用区域内)
堆積物・埋設物の存在	堆積物 5山確認 埋設物 可能性低
処分場整備費(R7算定)	88億円(税込)
維持管理費(R7算定)	1.7億円(税込)/年 ※埋立期間15年間

整備スケジュール



相模原市のごみの 現状と課題について

相模原市 環境経済局 環境部

廃棄物政策課・資源循環推進課・清掃施設課

背景

時代の変化により、社会が抱える課題

人口減少



超高齢化



働き手不足



気候変動



....

他にも、社会保障、子ども・子育て、環境、産業振興、まちづくりなど...

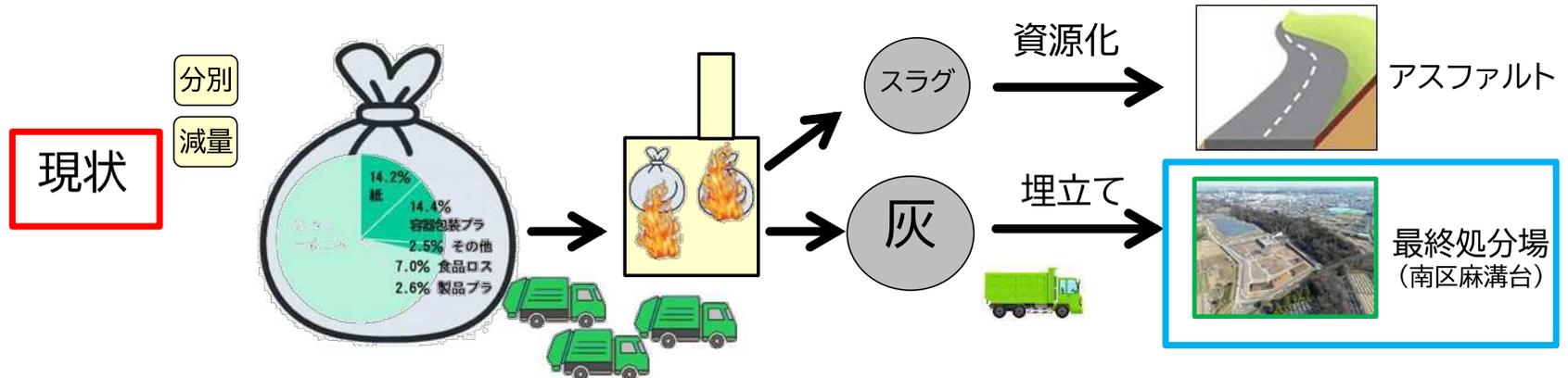
⇒市(行政)は市民に対して十分なサービス
を提供し続けていけるのか？

目 的

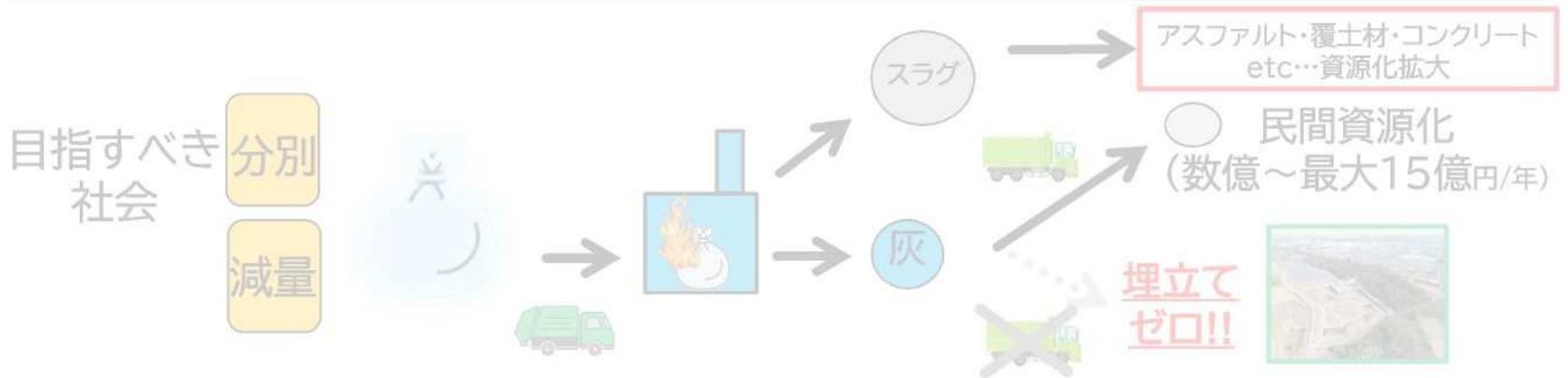
相模原市の①ごみの現状とともに、②直面している課題や③皆さんにお願いしたい取組みについてお伝えすること

目指すべき社会

最終処分場を必要としない日常



家庭から出たごみは、清掃工場で燃やされ、灰などの大部分は最終処分場で埋立てている。



家庭ごみを大幅に減らし、それでも出る灰は全て資源化などで有効活用。埋立てゼロへ。 3

家庭ごみの流れ



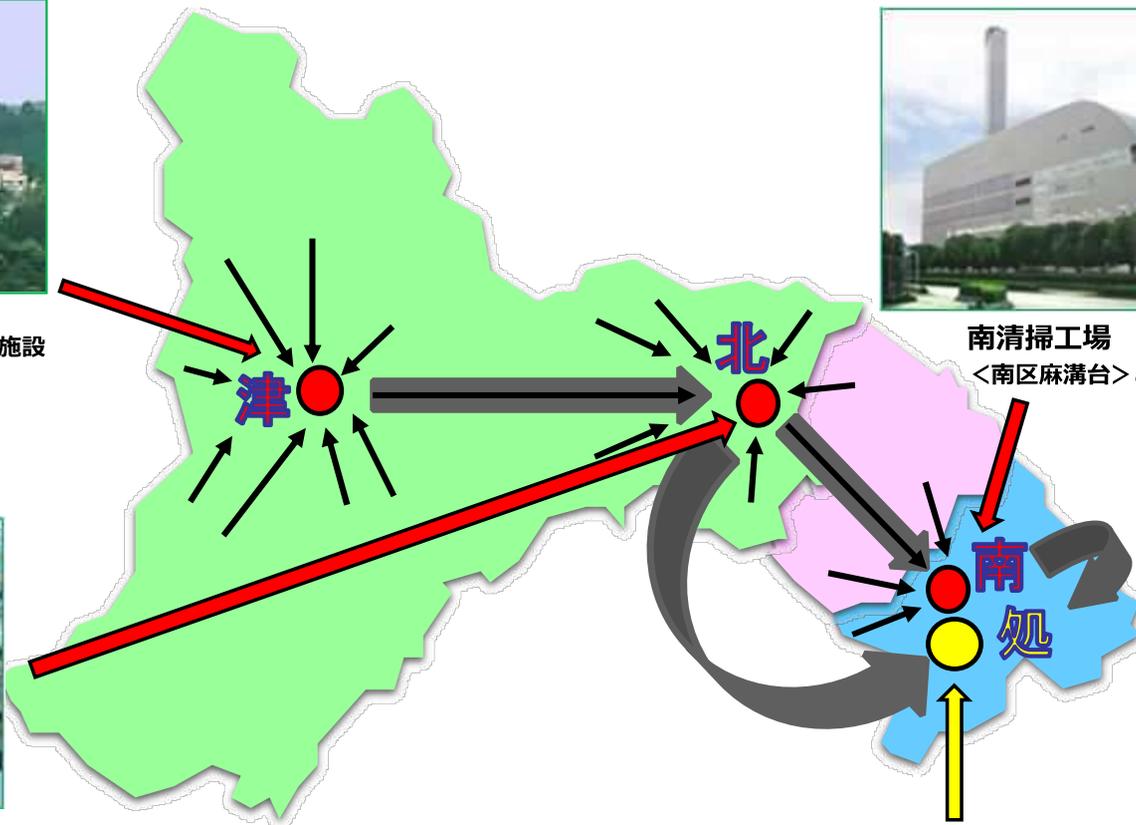
津久井クリーンセンター
〈緑区青山〉ごみ中継・し尿処理施設



南清掃工場
〈南区麻溝台〉ごみ焼却施設



北清掃工場
〈緑区下九沢〉ごみ焼却・粗大ごみ破碎施設



一般廃棄物最終処分場
(シゲンジャーパーク)
〈南区麻溝台〉

灰などの埋立処分

市内各地区のごみが
焼却などの過程を
経て集まっている！



一般廃棄物最終処分場(シゲンジャーパーク)の役割

最終処分場 = **ごみを燃やした後の灰など**を埋め立てる場所



第1期整備地(南区麻溝台)

・埋立て完了(S54年~H20年)

第2期整備地(南区麻溝台)

・埋立て中(H20年~)

・整備費約64億円

・年間1.9万トン埋立て

⇒25mプール25杯分相当

平成20年撮影

一般廃棄物最終処分場(シゲンジャーパーク)の課題

現在埋立て面(地表面とほぼ同じ高さ)



第2期整備地 (平成20年埋立開始当時撮影)

埋立開始時



第2期整備地 (令和7年9月撮影)

上から撮影

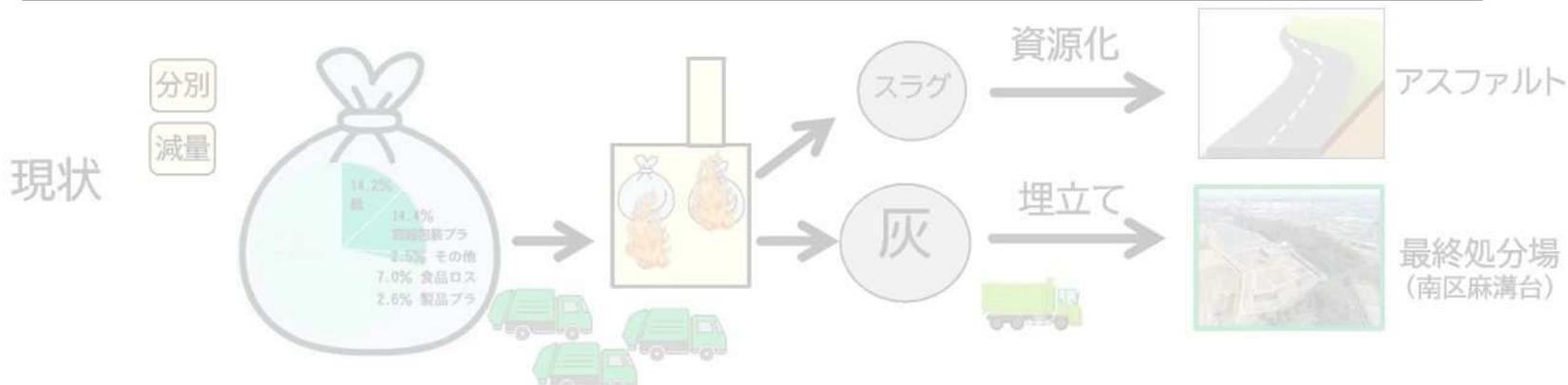


第2期整備地 (令和7年9月撮影)

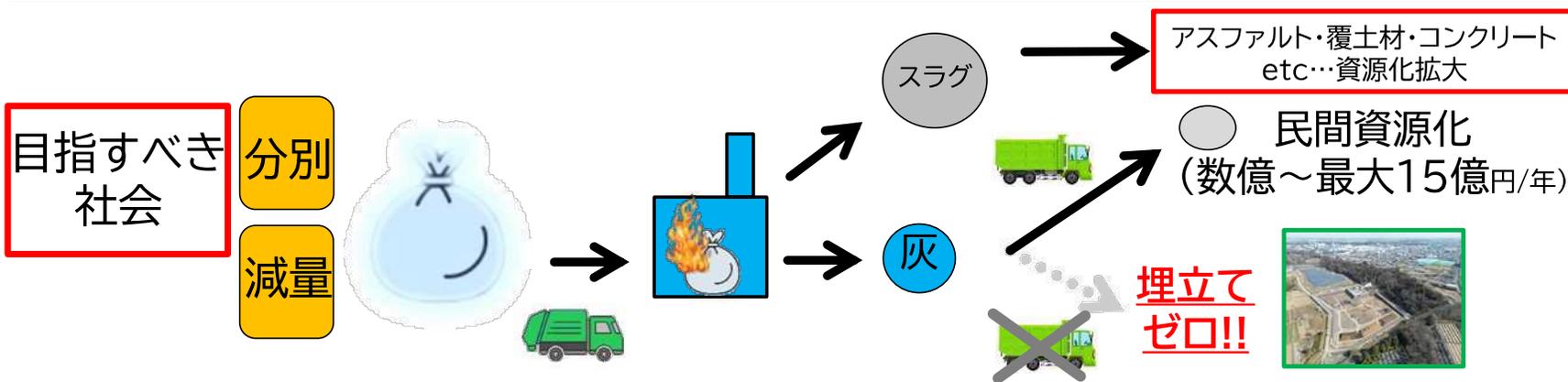
あと12年(令和19年)で
満杯になってしまう見込み

目指すべき社会(再掲)

最終処分場を必要としない日常



家庭から出たごみは、清掃工場で燃やされ、灰などの大部分は最終処分場で埋立てている。



家庭ごみを大幅に減らし、それでも出る灰は全て資源化などで有効活用。埋立てゼロへ。

ごみ総排出量の推移と政令市比較

①市のごみ総排出量の推移



②政令市家庭系ごみ量(令和5年度)

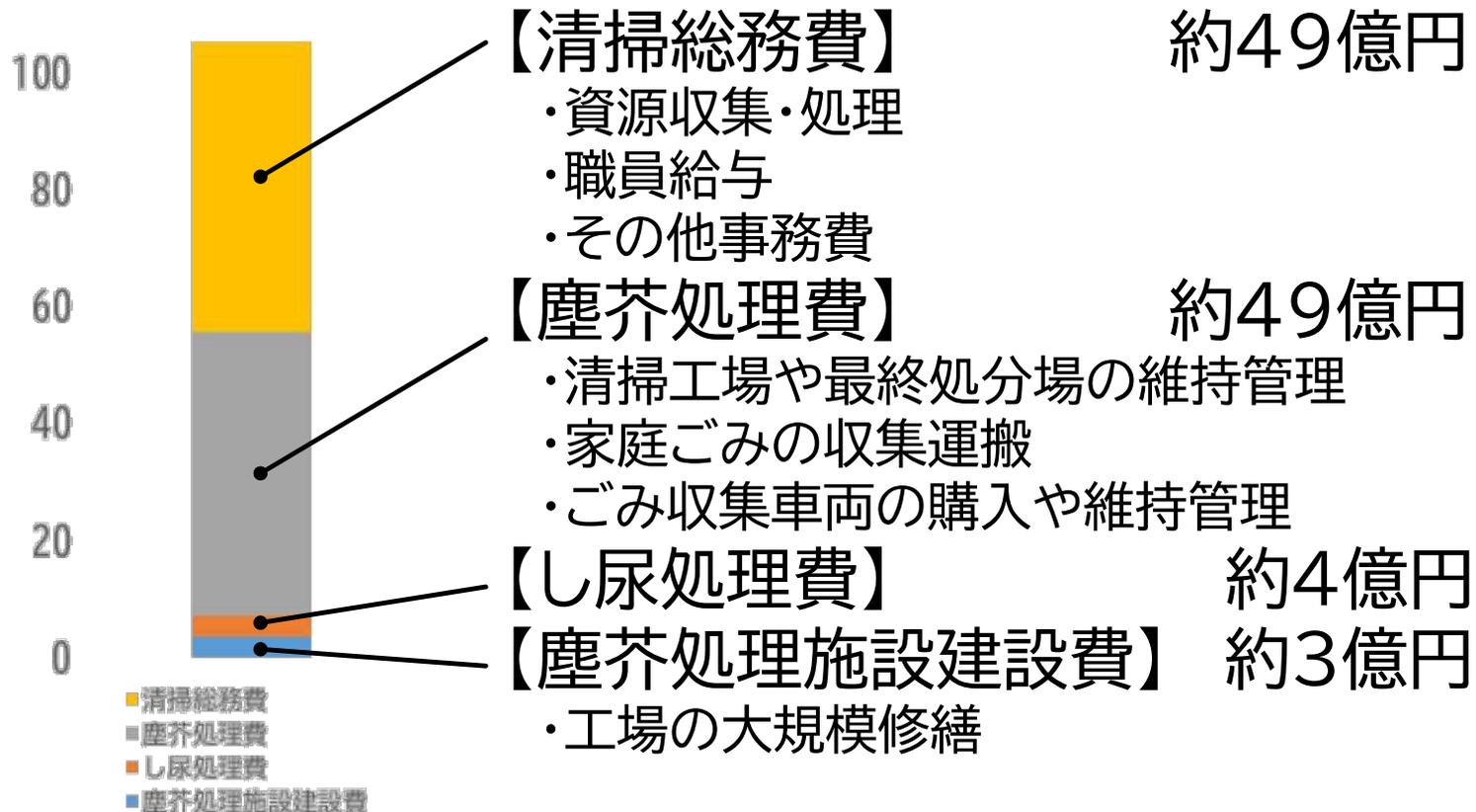


ごみの量は減ってはいるが、政令市の中では多い状況

ごみ処理の費用

合計 約105億円(R6一般会計決算:約3500億円)

120 億円



一般廃棄物最終処分場(シゲンジャーパーク)の課題(再掲)

現在埋立て面(地表面とほぼ同じ高さ)



第2期整備地 (平成20年埋立開始当時撮影)

埋立開始時



第2期整備地 (令和7年9月撮影)

上から撮影



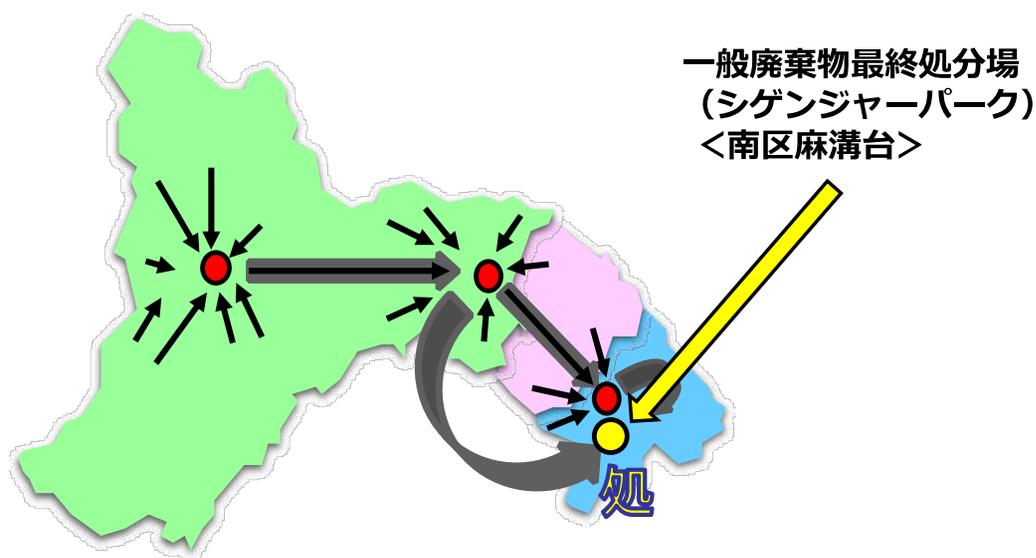
第2期整備地 (令和7年9月撮影)

あと12年(令和19年)で
満杯になってしまう見込み

次期一般廃棄物最終処分場整備の課題

- ✓ 立地可能な候補地が極めて限られる
(広大な土地が必要、法規制など)
- ✓ 候補地となった地域住民の理解が必要
(最終処分場のある地域への負担)
- ✓ 整備に多額の費用と時間が掛かる
(用地取得、工事など)

一般廃棄物最終処分場整備による地域負担(麻溝地区の例)



次期一般廃棄物最終処分場
候補地2カ所 <南区麻溝台>

- ✓ 昭和54年から現在まで最終処分場があり続けており、次期候補地にもなっている
- ✓ 次期候補地となった令和4年から現在に至るまで話し合いが続いている
- ✓ 麻溝地区には清掃工場も立地している

特定の地域に負担が掛かっている状況

次期一般廃棄物最終処分場整備の課題

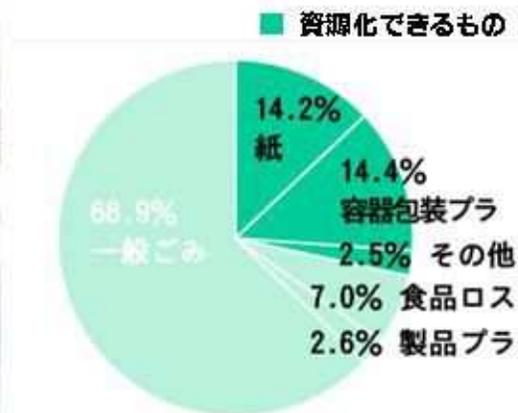
市民全体が課題として認識し、
ごみを減らしていくことが大切

市民が身近に取り組めること(4Rの推進)

ごみ集積場所に出された
家庭ごみの中には、まだ

30%の資源が
含まれています。

～混ぜればごみ 分ければ資源～



家庭ごみを調べた結果(令和6年度)

相模原市では
4Rを推進!

Refuse (リフューズ)

不必要なものは買わない、使わない

- ▶ 買い物にはマイバックを
- ▶ 割りばしや使い捨てのスプーンは断る
- ▶ 買い物時過剰包装を断る
- ▶ 買い物は計画的に



Reduce (リデュース)

ごみになるものを減らす

- ▶ 食べ残しをしない/食品を食べきる
- ▶ 詰め替え商品を買う
- ▶ 生ごみは水切りをする



Reuse (リユース)

ものを繰り返し使う

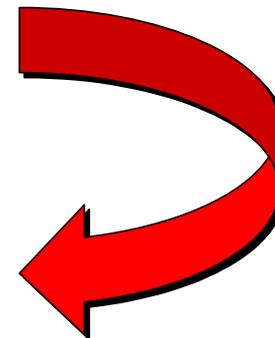
- ▶ フリーマーケットやリサイクルショップを利用する
- ▶ 壊れたものは修理して使う
- ▶ マイボトル、マイはしを使う



Recycle (リサイクル)

再び資源として使う

- ▶ ごみと資源(カン、びん、古紙等)は、分別して出す
- ▶ 生ごみを堆肥化する



市民が身近に取り組めること(具体例)

お菓子等の空き箱と牛乳パックを分別して
資源にすると約30~40グラムの削減



レジ袋を辞退すると
約7グラムの削減



マイボトルを利用すると
ペットボトル1本分の
約33グラムの削減



相模原ごみDE71大作戦

マスコットキャラクター「レモンちゃん」

☆家庭から出るごみの量を1人1日あたりレモン1個
(約100g) 分減量することを目標にしております

生ごみを手で絞った場合、
約10%の減量化



生ごみは約100グラム/人・日なので、
約10グラムの削減



シャンプー・化粧品など
詰め替え製品を使うと
約40グラムの削減



食品ロスを減らす取組み(具体例)

買い物前に

1. 冷蔵庫をチェック

まだ食べられる!

2. 消費期限と賞味期限の違いを知る

食料を無駄にしない

3. 調理方法を工夫

買い物時に

4. てまえどり

会食時には

5. 3010(さんまるいちまる)運動

食べ切れない時は

6. mottECO(もってこ)

使わない食材は

7. フードドライブ



すぐに食べるなら、手前をえらぶ。
「てまえどり」
にご協力ください。



ごみ減量の効果

目標の1人1日100g減量でこんな効果が！！

100gは
レモン1個分



ごみ処理経費削減



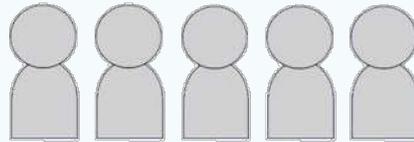
1年間で約7～8億円
(※1)

ごみ減少量



年間 26,000トン
ごみ収集車約13,000台分

CO₂削減



年間 13,000トン
1年間で約36,000人が排出するCO₂量

最終処分場延命

約2年の延命

(※1) ごみ処理原価(処分費)から算出

今後に向けた市の取組(家庭系ごみ)



BOOK-OFF × ジモティー × SDGs 未来都市 ながさき



②

容器包装プラスチック
菓子袋や白色トレイ等

プラ
プラマークが目印

製品プラスチック
プラスチックでできている製品
スプーン、コップ、定規等

③

ミックスペーパーとして排出できるもの

紙製容器包装 雑誌・雑がみ 感熱紙 シュレッダーごみ

④

有害ごみとして排出できるもの

リチウムイオン電池等の二次電池 (膨張していないもの)、乾電池、ボタン電池、水銀体温計など

(例) モバイルバッテリー 乾電池 ボタン電池 水銀体温計など

①民間事業者と連携したリユースの推進(令和7年4月開始)

②プラスチック一括回収(製品プラスチックを資源として回収)

☆プラスチックとペットボトルの回収日を別にする

③ミックスペーパー一括回収(紙製容器包装+雑誌・雑がみ等)

☆一般ごみで回収している紙類(レシート、写真、感熱紙、シュレッダーごみ等)と雑誌・雑がみ、紙製容器包装を併せて回収

④リチウムイオン電池等のごみ資源集積場所回収

☆有害ごみとしてリチウムイオン電池、乾電池、ボタン電池等を回収

<その他、検討している事>

- ・家庭ごみの有料化
- ・家庭ごみの戸別収集

→ 令和8年10月開始

今後に向けた市の取組(家庭系ごみ)

現在

<p>一般ごみ 週2回</p> <p>乾電池 週1回後半の曜日に</p>	
<p>資源 週1回</p> <p>びん類、かん類、金物類、紙類 布類、蛍光灯・水銀体温計 使用済食用油</p>	
<p>容器包装プラ 週1回</p> <p>※種類ごとに分けて出す。 ペットボトル プラ製容器包装</p>	

変更後(R8.10~)

<p>一般ごみ 週2回</p> <p>乾電池 週1回後半の曜日に</p>	<p>祝日も収集します。 ただし、12月31日~ 1月3日は除く。 曜日</p>
<p>資源 週1回</p> <p>びん類、かん類、金物類、紙類 布類、蛍光灯・水銀体温計 使用済食用油</p> <p>【新】ミックスペーパー</p>	<p>祝日も収集します。 ただし、12月31日~ 1月3日は除く。 曜日</p>
<p>プラスチック 週1回</p> <p>※種類ごとに分けて出す。 ペットボトル プラ製容器包装</p> <p>【新】製品プラスチック</p>	<p>祝日も収集します。 ただし、12月31日~ 1月3日は除く。 曜日</p>
<p>ペットボトル 週1回</p> <p>【新】有害ごみ ペットボトル 【新】リチウムイオン 電池等</p>	<p>祝日も収集します。 ただし、12月31日~ 1月3日は除く。 曜日</p>

- ・プラスチック一括回収
(製品プラ、容器包装プラ)
- ・ミックスペーパー一括回収
(紙製容器包装、雑誌・雑紙等)
- ・リチウムイオン電池等を回収
(有害ごみとしてリチウムイオン電池、乾電池等)
- ・ペットボトル・有害ごみの日を新設

おわりに

本日はありがとうございました

多くの皆さんに更なるごみの減量化・資源化に取り組んでいただけるよう、本日の内容をご家族やお知り合いの方々にも伝えていただけると幸いです

參考資料

ごみの分別について

相模原市ではごみなどを
次の4つに分けています



①一般ごみ

②資源

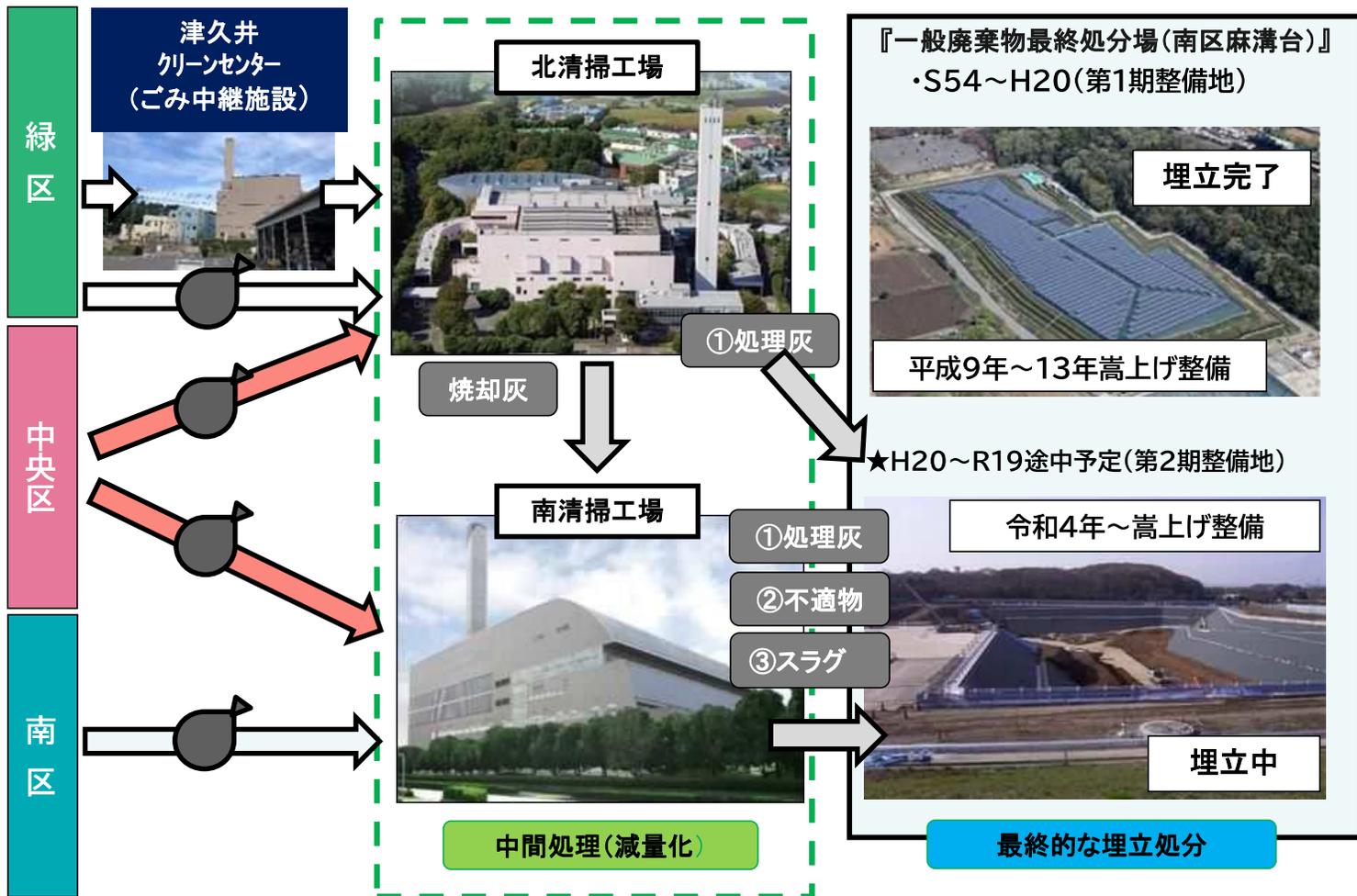
③容器包装プラ

④粗大ごみ



相模原市ではステーション収集(集積所)を実施

家庭ごみの流れ(詳細)



集積場所の数(R6)

2.1 万箇所

ごみ焼却量(R2~6平均)

年間 **18** 万トン

埋立て量(R2~6平均)

年間 **1.9** 万トン

相模原市の4Rに関する情報発信



全小学校(4年生)への出前授業



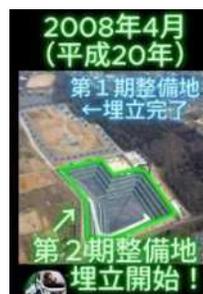
大人への出前講座



集積場所での早朝啓発



ごみ分別アプリ



PR動画を
YouTubeで公開



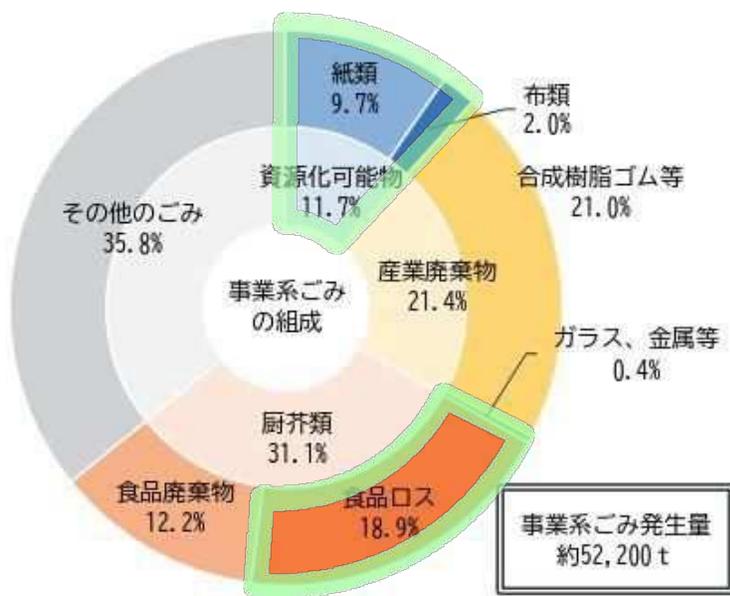
分別戦隊
シゲンジャー
銀河



このほかにも、イベント等での啓発ブースの出展や「きれいなまちづくりの日(5月30日)」キャンペーンの実施、中小事業者の訪問指導などを行っています！

今後に向けた市の取組(事業系ごみ)

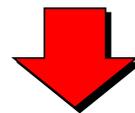
事業系ごみを調べた結果



令和4年度事業系一般廃棄物組成分析調査より

- ・資源化可能物(紙類や布類) 約12%
- ・食品ロス 約19%

→ まだまだ減らす努力ができそう



事業者への啓発を続けて
市民・企業・市が一体となって
減量化を実現していく

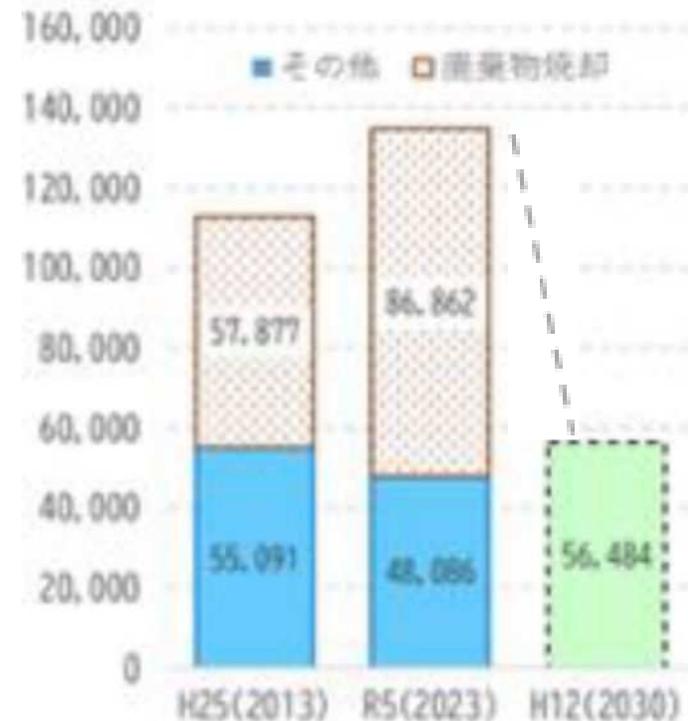
世界的なCO2問題

2050年カーボンニュートラルに向けて

CO2（二酸化炭素）の排出量

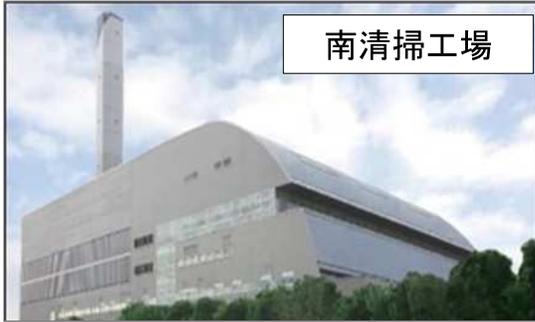
地球温暖化が世界的な課題と言われる中、各都市でも様々な方法でCO2削減に取り組んでいます。市では市役所業務におけるCO2排出量を、2030年(令和12年)までに2013年度(H12)比で50%以下とすることを目標とし、様々な取組みを進めています。しかし、全体の割合としては、ごみの焼却によるCO2排出量がかなり多い状況です。

市役所業務に伴うCO2排出量



廃棄物焼却に関するCO2排出量が多い

最終処分場延命化の取組(焼却残渣を埋立てず活用)



南清掃工場

取組① スラグの利用

- ・ 市工事のアスファルト骨材
- ・ 最終処分場の覆土材
- ・ 市工事の利用範囲拡大
- ・ 民間企業と共同研究



津久井広域道路



熔融スラグ

有効利用

取組② 有価物の回収 その1(不適物のふるい分け・分別)



分別後: アルミ



分別後: 鉄類

有価物
として
売払い



不適物
(燃え残った金属・ガラス・陶器)

ふるい分け

ふるい上

ふるい下

取組③ 民間施設での資源化 (不適物)の試験



徐冷スラグ



施工例: 護岸等

取組④ 有価物の回収 その2

焼却過程から、金 (7kg) ・ 銀 ・ 銅 ・ パラジウムを回収

